



所内 第16回 写真コンクール入選作「枕状熔岩」地質部 一色直記

枕状熔岩

水成の堆積岩累層にはさまれて 写真に示したような奇妙な構造を持った火山岩層が見出されることがある。その形態の類似から 枕状熔岩あるいは俵状熔岩と呼ばれるものがこれである。

写真で楕円形に見えるものは“枕”の断面で、立体的にはその一つ一つがやや扁平な楕円体である。この露頭では“枕”の長軸にほぼ垂直に切った断面が観察される。“枕”は短径数10cmで その表層部の1cmは黒色のガラス（割れ目に沿って風化しているので写真では白く見えている）中心に行くほど結晶度がよくなっている。断面で見られる放射状の割れ目は“枕”の表面の亀甲状の割れ目に続いている。

“枕”には注目すべき特徴がまだある。一つの“枕”がほかの“枕”の間をみたくように突き出したり 包むような形をしている。これは枕状熔岩の上下を判定するよい鍵となる。さてここではどちらが上であろうか。その答は左上が正解である。“枕”と“枕”との間は黒色ガラスの破片がみだしている。

枕状熔岩と似た構造を示すものに乾陸上に流出したパホイホイ熔岩がある。いずれであるかの判定は地質時代が古くなるほど困難であるが、“枕”はその短軸に対する長軸の長さが一般に2倍程度 急冷によって生じた

緻密なガラス皮殻を持ち 収縮による放射状の割れ目が見られるなどのことから パホイホイ熔岩の toe とは区別できる。

玄武岩熔岩が海底・湖底あるいは氷河の下へ噴出したリ 乾陸から海や陸水中へ流入したりすると枕状熔岩になることが多い。写真の例は福島県常磐炭田西方の中新世の海成層中に見られるもので この種の熔岩の典型ともいえるものである。

おしらせ

地質調査所北海道支所(札幌市南一条西18丁目)の電話局番が変更(8月23日から)になりました。

新局番(011)611-4465(代)

旧局番(0122)61-4465(代)

地質ニュース	第194号	10月号
	定価 ¥250	〒12
昭和45年10月25日	発行	
編集	工業技術院	地質調査所
発行人	林	久雄
発行所	株式会社	実業公報社
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (261) 7173・9387	
	振替口座	東京 32466
総発売元	政府刊行物販売所	
	東京都千代田区大手町1の8	
	Tel. (211) 5470	
印刷所	共同印刷株式会社	